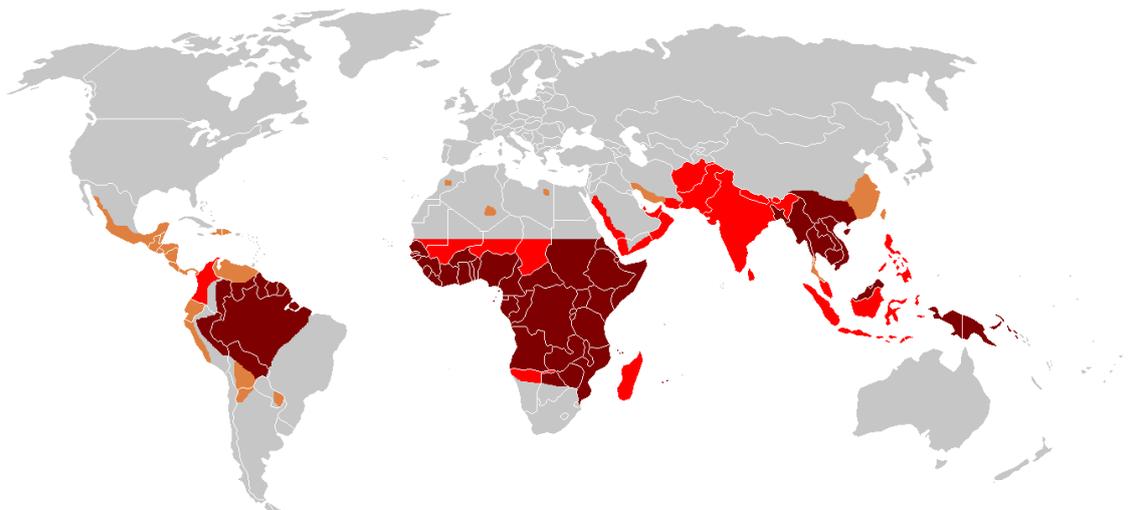


実験用ニホンザルを用いた マラリア研究の新展開

川合 覚(獨協医科大学)

マラリアは熱帯・亜熱帯を中心とした地域に蔓延しており、いまなお年間3億～5億人の有病者と、150～270万人の死亡者を数える重要感染症のひとつである。これまでに演者らは、ニホンザルとカニクイザルのマラリア原虫に対する感染感受性の違いに着目し、多角的な研究を進めてきた。ニホンザルでは、マラリア原虫の高い増殖性に伴って重篤な臨床症状が発現し、他に類を見ない「重症マラリア疾患モデル」として活用することができる。一方、カニクイザルでは原虫の増殖は低調で、軽度の発症を経過したのち潜在感染へと推移する。両種のこのような特性を比較することにより、マラリア重症化の病理発現機序や抵抗性因子の解析へ新たな展開を期待することができる。



‘Map of places affected by malaria by type’ by Percherie available at <http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/0/0e/Paludisme.png>, [GFDL (<http://www.gnu.org/copyleft/fdl.html>), CC-BY-SA-3.0 (<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>) or CC-BY-SA-2.5-2.0-1.0 (<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/2.5-2.0-1.0/>)], via Wikimedia Commons



獨協医科大学熱帯病寄生虫病学講座准教授。博士(医学)。
1988年酪農学園大学獣医学部卒業、獣医師免許取得。財団法人食品薬品安全センター秦野研究所に研究員として従事後、1991年群馬大学医学研究科博士課程に進学、1995年修了。1998年獨協医科大学医動物学教室助手を経て、2005年より現職。
専門は寄生虫病学、とくにヒトおよび動物の血液寄生性原虫病。現在は人獣共通感染性サルマラリアに関心をもつ。
2011年第38回獨協医学会最優秀賞受賞。著書(共著)に「ヒトの重症マラリア疾患モデル総論」(日本医学館、1997)、「EDG-PET imaging in a primate model of severe human malaria」(Nova Science Publishers, Inc., 2007)、総論に「人獣共通感染性サルマラリア: Plasmodium knowlesi 感染症、化学療法の領域、Vol. 29、2013」などがある。